

精神障がいの親と暮らす子供への支援事業

=子供が支援を求めやすい環境づくり=

(実施期間) 平成 25 年～

(基金事業メニュー)

対面型相談支援事業、人材育成事業、
普及啓発事業、強化モデル事業

(実施経費) 平成 26 年度 1,024 千円

(実施主体)

(960 千円)

親&子どものサポートを考える会

【事業の背景・必要性】

精神障害を抱える親の場合、その症状から適切な養育を十分に行えないことも多く、子供の目前で自殺企図するなど、その子供は通常とは異なる生活に生きづらさを感じやすい。これらの子供の多くは、家の状況を外部の人に話してはいけないと思いがちであり、生きづらさを感じても援助を求める行動を取らないことが多く、自殺のハイリスク状態にあると考えられる。そのため、子供の自殺予防には、これらの親子の状況を察知し必要な支援に繋ぐことや、子供自身が「支援を求めてもよい」と思える環境を整えていく必要がある。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

現行の社会制度では、精神障害を抱える当事者への支援はあるが、その子供への支援はなく、不十分な養育によって子供が傷ついていても、見過ごされてしまう状況にある。これは、三重県に限らず、全国どの地域においても同様である。精神障害の親と暮らす子供が Web サイト上でやり取りする掲示板 (http://oyakono-support.com/keijiban_top.html) には、「こんな生活もう嫌だ」、「誰にも話せない」、「死んでしまいたい」など子供の悲痛な声が多数寄せられるが、その実態を把握する手段はない。こうした子供の存在や声なき声に着目してこなかったのが現状である。

【事業目標 事業内容】

本事業は、苦しい胸の内を誰にも話すことができなかつた“精神障害の親と暮らす子供”が、安心して「支援を求めてもよい」と思える環境を整えることにより子供の自殺を予防することを目的としている。

具体的には、以下の①～⑤の活動を通して子供が支援を求めやすい環境づくりを目指す。

① 支援者研修会の開催

子供の身近に存在し、支援する立場にある者（教員、民生委員・児童委員、医療・福祉関係者ら）を対象とした支援者研修を開催し、精神障害の親と暮らす子供の生活状況や子供が抱える思いなどの理解を図り、状況に応じた支援が行えるようにする。



② 支援者間の連携、情報交換

精神障害の親と暮らす子供の支援に取り組む全国の機関が集まり、親・子の現状やそれぞれの取組を情報交換し、子供への支援をどのように繋げていくのかを検討する。

③ 子供への支援（集団）、ピアサポート

誰にも相談できずに孤独に過ごしてきた子供たちが、安心して思いを語り、同じ境遇の仲間と繋がりを持てる場として、「三重 子どもの集い・交流会」を1回/月のペースで開催し、精神的支援やピアサポートを行う。また、三重の集いに参加することが難しい全国の子供が仲間と



6 社会的な取組で自殺を防ぐ⑩

繋がる場として「全国版 子どもの集い・交流会」を、利便性の良い都市（平成 26 年度は名古屋）で開催し、思いを共有し孤独を癒す場を提供する。

④ 子供への支援（個別）

集団が負荷となる子供に対する個別相談（精神的支援）の実施。

⑤ 啓発活動

子供の思いや上記①～④の取組を紹介するリーフレットの作成やホームページ開設により、「親&子どものサポートを考える会」（以下「本会」）の存在や活動を知ってもらい、支援の必要な子供を本会に繋いでもらうなど、子供自身が「子供を支援する機関もあり、助けを求めてもよい」と認識できるようにする。

【事業実施にあたっての運営体制】

精神看護学や医学、保育を専門とするスタッフ 15 名で構成。

子供や研修参加者のニーズに応じて、精神科看護師・精神科医師・臨床心理士・精神保健福祉士・保健師・保育士が連携し、専門性をいかした支援（研修を含む）を行うことで、子供の必要とする支援を提供する。

【事業の工夫点】

- ① 思春期年代の子供たちは、自身の置かれた境遇やそこで感じる気持ちをわかって欲しいと思う一方、不用意にそのことに触れて欲しくないという思いを持っている。そのため、面識のない本会スタッフが接近するよりも、面識のある人の介入が有効と考え、支援者の育成に力を注いでいる。支援者研修は、子供の理解を中心とした基礎講座、実際の支援方法を考える実践講座の 2 講座に分けて実施している。
また、支援者の抱え込みや孤立を防ぐため、研修では、多職種連携の必要性についても伝え、グループワークなどを通して多職種と知り合う機会を設けている。
- ② 子供の集い・交流会では、スタッフは必要時に情報提供をしつつ、初回参加者のフォローなど場を安全に運営することに主眼を置き、子供が安心して語れる場や同じ境遇の仲間同士によるピアサポートの場となるようにしている。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

- ・ 支援者研修参加者からは、「自分に何ができるか考える機会になった」、「他職種と情報交換する機会となった」など概ね良好なフィードバックが得られ、研修会の目的はある程度達成されたと考える。しかし、子供支援を念頭において実施している機関や多職種・多機関が連携して支援を行っているところは少数であり、多機関が情報交換・連携して支援していけるような、体制作りが必要である。
- ・ 子供の集い・交流会の参加者は、仲間に支えられることにより、「生きていてよかった」「自分の人生（語り）が他の人を勇気づけることができる」と知った」など、自己受容や自己肯定に繋がっており、自殺予防の一助になっていると思われる。
- ・ 精神障がい親と暮らす子供を対象とした支援は全国的にも実施されている機関が少なく、三重で実施している子供の集い・交流会には、県外からの参加者も多い。こうした子供支援が各地で広まるよう、支援の有り方を広めていくことが必要と考える。



（問合せ先） 三重県健康福祉部医療対策局健康づくり課

TEL：059-224-2294

E-mail：kenkot@pref.mie.jp

URL：http://ss100051/KENKOT/HP/